

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization



うれしの

2018.8

第56号

【発行所】
嬉野医療センター
佐賀県嬉野市嬉野町
大字下宿丙2436番地



「佐賀市 ひょうたん島公園」

基本理念

「ひとり一人を大切に」

医療は患者さんの為のものであり、安心して安全な医療の実践が必要である。ひとり一人を大切にすることは、この医療の実践に重要である。この「ひとり一人」は、患者さんのみならず当院に関係する全ての人たちを指し、ひとり一人が大切にされることによって、ひとり一人が周囲を大切にする。このようにして、当院は人命を尊び人格を敬って医療に携わっていくものである。

運営方針

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 迅速で質の高い医療 | 5 適切な病院機能の更なる継続 |
| 2 安全で安心な医療 | 6 経営基盤の確保と新病院建設 |
| 3 地域医療構想に基づく医療 | 7 将来を担う医療人の育成 |
| 4 患者さんの権利を重視した医療 | 8 臨床研究と治験による医療への貢献 |

患者さんの権利

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 | 5 常に人としての尊厳を守られる権利 |
| 2 疾患の治療等に必要情報を得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利 |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 | 7 継続して一貫した医療を受ける権利 |
| 4 プライバシーが守られる権利 | 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

嬉野医療センターのスペシャリスト

集中ケア認定看護師としての5年間

西2病棟 副看護師長(集中ケア認定看護師) 河上ひとみ



平成25年7月に集中ケア認定看護師の資格を取得し5年が経過しようとしています。当院には不慮の事故や突然の発症などにより重篤な状態に陥った患者様が多く来院され、そのような状況にある患者に直面した御家族はとても不安な状態になります。私は患者様や御家族の気持ちに寄り添った看護をしたい、集中医療領域でスキルアップし質の高い看護を提供したいと思ったことが認定看護師を目指すきっかけでした。

集中ケア認定看護師の役割は、生命・身体機能が著しく障害されている患者様に対し、病態の変化を予測し、重篤化を回避できるような看護を提供することです。この5年間でたくさんの患者様や御家族と接してきましたが、悲しくて辛い場面で患者様や御家族の気持ちに寄り添った看護ができていたのかと苦悩するときもあります。しかし、重篤な状況を乗り越え、歩いて退院される患者様の姿は私の原動力です。日々命の重さを感じながら勤務をしておりますが、日頃私が大事にしていることは、患者様の重要なサインを見逃さないようにすることです。患者様の異変に早期に気付くことができれば、その後の対応により、重症化を回避できる可能性があると思います。そして、それは私だけでなく関わるスタッフ全てにおいて必要なスキルだと思います。

毎週月曜日に、多職種とチームを作り重症患者のラウンドを行っています。今後は、院内研修などを通じて看護師教育を行うと同時に、多職種との連携をさらに密とし、チームスタッフの要として、救命率の向上ならびに患者様や御家族が安心して治療を受けられるような環境整備に取り組んでいきたいと考えます。



「感染管理」の道

感染対策室 副看護師長(感染管理認定看護師) 重松孝誠

私は平成26年7月に当院2人目の感染管理認定看護師の資格を取得し、今年で5年目になります。「将来は何か資格は持ちたい」と漠然と考えていた私は、当時の病棟師長から「感染管理の道に進んでみないか」と声をかけていただき、嬉しさとともに、大きな不安を感じたことを今でも覚えています。ただ、当時は感染対策リンクナースとして活動するだけでそれほど感染管理に興味を持っていたわけではありませんでした。「資格を持って自信をつけたい」という思いと、「このまま感染管理の道に絞っていいのか、ほかの可能性を確かめる前に決めていいのか」という思いで長い間悩みました。しかし、感染管理認定看護師になろうと決意したのは一緒に働いた同期の存在が大きかったように思います。「私はこれがしたい」とはっきりと宣言できる同期に感化され、「じゃあ、自分は何が一番したいのか」と考えた時に、私の頭に浮かんだのは「感染管理」の道でした。

感染管理認定看護師となり、4年間兼任として病棟で勤務しながら、所属する病棟の感染管理を重点的に行ってきました。「働いているからこそ分かる感染対策がやりにくい理由」を見つけることをモットーに、感染対策を適切に実施するにはどのような改善をすればよいか病棟スタッフと考えてきました。認定看護師の資格を取得する時に多くのことを学んでいますが、あくまでも理想的な感染対策であり、それが現場でも同じように通用するとは限りません。実際にその問題点と向き合い、理想ばかりではなく、実践的な方法としてスタッフに伝えることを学びました。

今年の4月からは感染対策室に専従勤務となり、病院全体の感染管理を行っています。前任者が作り上げてきた感染対策を実施することで今はまだ精いっぱいですが、現場を見て、何が問題かという兼任の時に学んだことを大切にしながら、今後は視野を広く持って当院の感染対策に貢献できればと思っております。



ようこそうれしの!

病院見学会&インターンシップ

平成30年5月26日に平成30年度病院見学会 & インターンシップが開催され、8名の方が参加されました。

午前中の病院見学会では、ヘリポートを見学するコースとしていましたが、開始時点で雨が降っていたため断念せざるを得ない状況でした。しかし参加者の方の「ヘリポートが見たい」という思いに応えるように、お昼から雨は上がりヘリポートでの記念撮影をすることができました。また、タイミングよく患者搬送でドクターヘリも来ていたため、ドクターヘリの中を見学することができ、参加された方は貴重な体験ができました。午後からのインターンシップでは希望病棟に分かれ、患者さんと触れあい、病棟看護師と洗髪などの看護実践を行いました。病棟看護師と一緒に看護実践をすることで当院の看護理念である「プラス1の看護」を伝えることができたのではないかと思います。最後に意見交換会を行い、当日の看護体験の振り返りはもちろん、先輩看護師から「休日の過ごし方」について話もあり「就職後のイメージができました」との意見を頂きました。

参加された方々が来年度当院の看護師として就職して下さることを、職員一同お待ちしております。(文責：副看護師長 重松孝誠)



ヘリポートでの記念撮影



看護職員就職説明会に参加して

外来看護師 落合 翼

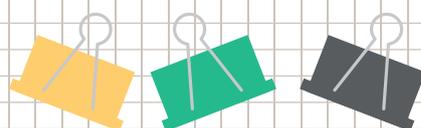
平成30年5月12日(土)福岡会場(アクロス福岡)にて開催された国立病院機構九州グループ主催の看護職員就職説明会に参加しました。当院のブースには九州各県より46名の看護学生や再就職希望の方に足を運んでいただきました。

昨年度、質の高い人材を確保することを目的に人材確保プロジェクトが立ち上がり、2、3年目の看護師が中心に若い感性を活かした、学生たちが興味を引くパンフレット作りやブース設営に取り組んできました。

今回の就職説明会のアピールポイントを、①平成31年6月に新病院完成 ②BFH(Baby Friendly Hospital)認定施設である事とし、当院に興味を持ってもらい、また嬉野の良い所を知って欲しいという思いでプレゼンテーションを行いました。新病院での看護体制や、新しい看護師寮などの質問も多く、助産師として就職希望の方は多くの質問をされていました。その他、参加者からは勤務体制や採用人数、職場環境の雰囲気等の質問が多く、病院見学・インターンシップにもぜひ参加したいと言う声が聞かれ、当院に対して興味を持ってもらうことができ嬉しく感じました。

私自身、新人の時に参加して以来8年ぶりの参加となり、現在の学生がどのような思いで説明会に参加し、就職先を選考する際に何を重視しているのか等、直接質問を受けることで知ることができました。この経験を今後の人材確保プロジェクトにおいて来年度のパンフレット作りや、ブース等の企画に反映させていきたいと思えます。

今回ブースに足を運んでいただいた方々と、一緒に働ける事を願っています。



病理検査室の管理から診断まで

～当院が、がん診療連携拠点病院であるために～

細胞検査士 (JSC・IAC) ・認定病理検査技師 倉橋幸恵

私は平成 23 年に新卒で国立病院機構に採用され、大学時に細胞検査士の資格を取得していたことから嬉野医療センターでは病理検査室に配属されました。

臨床検査には病理の他に、生化学、輸血、細菌、生理検査など様々な分野があり、それぞれに認定資格があります。いずれも熟練した技術や経験年数が必要であり、取得までに年数がかかります。唯一、大学在学中に取得できる認定資格が細胞検査士の資格で、大学の養成コースを選択することでその受験資格が得られます。私が卒業した大学には細胞検査士養成コースがあり、選抜でコースに残ると、臨床検査技師国家試験と同時に細胞検査士認定試験を受けることができます。私は、幸いにもこのダブルライセンスを取得でき、卒業後は念願の病理検査室に配属されましたが、赴任した当初は、10年以上キャリアのある先輩との入れ替わりで配属されたため、いきなり診断を任せられ、プレッシャーに押しつぶされそうな日々でした。資格をもっているからといって、すぐに診断できるほどの力量はなかったからです。細胞診は子宮癌健診で有名ですが、今では体腔液、尿や喀痰、気管支擦過、乳腺や甲状腺の穿刺吸引などあらゆる検体に応用されています。特に組織が採取できない部位に関しては細胞診が最終診断となる場合があるので、非常に責任の重い仕事になっています。そのため、解剖学から組織学、分子生物学など様々な医学的知識がないと診断できません。また、患者様の年齢や病態、検体採取の状態によっても細胞像は異なり、臨床経験のない私には非常に診断に悩む日々でした。赴任して3年目からは先輩が異動になり、代わりに新卒の後輩が入ったので、ほとんど一人で診断をする毎日が続きました。しかし、当院には細胞診指導医である内藤先生がいらっしゃるのので、分からない時は全て相談し、大きな失敗をすることなくここまで来ることができました。現在では後輩も資格を取ってくれて、ほぼ全例ダブルチェック以上で診断を返すことができています。



また、一昨年になります、認定病理検査技師の資格を取得しました。この資格は標準化された病理組織標本作製技術・専門的知識、病理解剖介助業務、および病理部門のマネジメント能力等を総合的に評価、認定するものです。病理診断を行う上で欠かせないのが質の高い病理標本の作製ですが、この標本作製も時代とともに変わってきてお

り、ほとんどの手技が自動化され、電子カルテやシステムの導入により、デジタル化されています。また、コンパニオン診断や遺伝子検査が入ってきて、病理診断自体も内容が少しずつ変わってきています。そういった変化に対応しつつ、標準化された病理組織標本の作製と質の高い病理診断を提供したいと考え、認定病理検査技師の資格を取得しました。この資格は平成26年に制定された新しいもので、佐賀県内で3人、九州でもまだ数える程しかこの資格を有する人はいません。まだ新しい資格ですが、今後は診療報酬制度やがん診療連携拠点病院を含め様々な認定の要件に入ってくると思います。

当院はがん診療連携拠点病院に指定されています。その指定要件に細胞検査士について表記されていますし、認定病理検査技師についても、上述したように今後指定要件にあげられることが予想されます。私は、細胞検査士、認定病理検査技師として、がん診療連携拠点病院としての機能と質をより一層高め、当院の発展に貢献していけるよう努力していきたいと思っています。





新しい臨床研修医を紹介します!

臨床研修医 井上須磨

研修医1年目の井上須磨と申します。嬉野医療センターで2年間お世話になることとなりました。

不慣れなことばかりで大変ではありますが、周囲のスタッフの方々に支えられつつ充実した研修生活を送らせていただいています。嬉野の医療に微力ではありますが、貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。

ご指導の程よろしくお願いいたします。



臨床研修医 岸川浩一郎

いつもお世話になっております。研修1年目の岸川です。佐賀大学病院と嬉野医療センターとのたすき掛けのプログラムで研修させていただきます。現在は神経内科で研修させていただいております。今後は検査科、救急科、呼吸器内科、循環器内科、麻酔科をローテーションさせていただく予定です。至らないところも多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、精いっぱい努力しますので1年間どうぞよろしくお願いいたします。

臨床研修医 黒木洋平

初めまして。2018年4月より嬉野医療センターにて初期研修をさせて頂いております黒木洋平と申します。生まれは佐賀県の唐津市相知町で、佐賀大学出身です。年少から大学6年生まで19年間剣道部に所属しておりました。嬉野医療センターでは2年間初期研修をさせて頂く予定ですが、至らないところも多くご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、精一杯頑張りたいと思いますので御指導御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます



臨床研修医 徳永直紀

はじめまして。嬉野医療センターで今年4月から臨床研修医として2年間お世話になります、徳永と申します。日本最北の医学部、旭川医科大学出身です。スタッフの皆さんに早く馴染めるよう、また、皆さんのお役に立てるよう日々精進致しますのでよろしくお願ひいたします。北海道ネタなどありましたらお気軽に話しかけてください。ご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

臨床研修医 長妻剛司

基幹型研修医1年目の長妻剛司です。出身は佐賀県唐津市で、高校卒業まで住んでいました。高校卒業後は岡山県倉敷市で大学生活を送ることとなりました。大学では、野球とバレーをしていました。初期研修は岡山に残るか、福岡に行くか大変悩みましたが、嬉野医療センターを選択して正解だったと思っています。まだ研修が始まって2ヶ月程ですが皆様に助けられて頑張っております。これからもよろしくお願ひします。



臨床研修医 山下翔太

いつもお世話になっております。今年の4月から嬉野医療センターで研修させていただいております、研修医1年目の山下翔太です。もともと出身は長崎ですが、佐賀大学を卒業したという縁もあり、こちらで2年間研修させていただくことになりました。ご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、一生懸命頑張りますので2年間どうぞよろしくお願ひいたします。

* 嬉野医療センター附属看護学校より

「1年生」基礎看護学実習を終えて

平成30年6月8日（金）に1年生の基礎看護学実習がありました。実習では3つの目標をもって取り組みました。

1. 患者を取り巻く療養環境を知る
2. 療養環境を整える看護活動の実際を知る
3. 療養生活を送る患者を取り巻く医療チームについて知る

午前中は病棟オリエンテーションを受け、患者の療養環境についての特徴・特殊性について学びました。その後、看護師さんと共に行動し、実際に行われている看護活動を見学しました。そして、その看護活動は患者さんのことをどのように考えて実施されたのか説明をしていただきました。午後からは病院内の地域連携室や薬剤部や事務部なども含めた、多くの部署の見学をさせていただきました。患者さんを支えるための役割と、療養環境を整えるためのチーム間の連携についてのオリエンテーションを受けました。

* <基礎看護学実習を終えての思い> *
* * * * *

私たち1年生にとっては初めての实習なので初めはとても緊張していましたが、しかし看護師さんに付いていき、患者さんとの何気ない会話の1つであっても意図が含まれていることを知りました。また私たちが今学んでいるバイタルサイン測定技術の素早さを見て、そこから得られた値がどのようなアセスメントに結びつくのかというフィジカルアセスメントの実際として、看護師さんの頭の中を説明していただくことで、その考え方の深さと知識の量に驚き、緊張はすぐに消えました。自分が将来こうなれるのかなという思いはありますが、こうなりたいという思いも強く持りました。

他職種の見学では、それぞれの職種がその専門性と責任を持ったプロフェSSIONALであり、患者さんのために様々な役割を担っていることを知りました。そしてその力が患者さんのために最大限に活かされるように、24時間生活を支えている看護師には、橋渡しをする調整の役割があることにも気付きました。またその連携の輪の一員として自分たち看護学生が含まれていることを自覚することにも繋がりました。

初めての実習でしたが、指導者さんや各部署で説明や指導、アドバイスをいただき、学びを深めることができました。今回の実習で学んだことを次回の実習や、日々の学校生活に活かしていきたいです。

(嬉野医療センター附属看護学校 一年生)



嬉野医療センター 自転車部紹介



嬉野医療センター自転車部広報担当、放射線科の福ヶ迫です。

今年も暑い夏がやって参りました。自転車に乗ると気持ちの良い季節です。

さて、皆様の中でほとんどの方が、何かしらの自転車に乗ったことがあると思います。自転車にも様々な種類があり、街乗りちょい乗りに最適なシティサイクル（通称ママチャリ）や、山岳地帯を自由に駆け巡るマウンテンバイク、遠乗りや高速巡行に適したクロスバイクやロードバイク等、それぞれに得意な分野があります。

自転車部では、その中のロードバイクに乗って活動しているため、その魅力について少しお話させていただきます。

まず何と言ってもこのロードバイク、他の自転車と比べてとてもスピーディに巡行できます。舗装された道路や、下り坂を走っている時の風を切る爽快感により、仕事で溜め込んだストレスなど吹き飛ばしてしまう事でしょう。

そしてこのロードバイク、漕ぐ時間にもよりますが、とてもカロリーを消費します。つまり楽しみながら痩せることができるのです。爛れた食生活を送ることでぽっこり育った私のお腹も大分スッキリしてきました。

このように良いこと満載のロードバイク、すぐにでも乗ってみたいと思った方もいることでしょう。私たち自転車部はいつでもお待ちしております。

なお、自転車部は週に1～2回程度（晴れの日）、業務終了後より1～2時間ほど嬉野市内を中心に活動しています。部員は5名程度で、現在はヒルクライム（自転車での山登り）を中心にトレーニングを行っております。ヒルクライムは、ただひたすら自転車で坂道を登るので、爽快感などあるはずも無くむしろ苦行に等しい行為ですが、登り切ったときの達成感と、帰り道の爽快感はそれだけでまた坂を登りたくなる程病み付きになります。

部員
募集中
です



最後になりますが、自分の限界に挑戦したい方、ゆる～くサイクリングしたい方、初心者や経験者問わず自転車部部員を募集しています。将来的にはレースへの参加など、活動の幅も広げて行きたいので、ご興味持たれた方いらっしゃいましたら是非遊びにいらして下さい。楽しい自転車ライフを送りましょう。

放射線技師 福ヶ迫 拓哉

病棟対抗バレーボール大会を開催 求ム！新時代の風

バレー大会担当
臨床工学技士 北村純一
手術室看護師 江口秀美

平成30年5月11日に第15回病棟対抗バレーボール大会を開催しました。

病棟対抗バレーボール大会は10年程前に始まり、今では年に3～4回不定期で開催しています。今大会もバレー初心者から経験者まで5チーム約60名の参加があり、楽しみつつも白熱した試合が繰り広げられました。医師・看護師・臨床工学技士・放射線技師など様々な職種の方が参加しています。試合の後は交流会もあり、バレーと食事を通して様々な部署や職種の人々と交流を深めることができました。普段はあまり関わらない他部署の人達とも仲良くなり、廊下であった際は気軽に話せるようになり業務がさらにやりやすくなったと感じました。

最近の大会結果としては、東4病棟が優勝、手術室が準優勝という結果が定着しており、なかなか順位が変わりません。しかし、最近では新しいチームの参加や、スタッフの入れ替わりでチーム力に変化が出たりと、いつこの成績が変わってもおかしくない状況にあります。ぜひ番狂わせをしに、チームを作って参加していただけると嬉しいです。病棟単位でなくとも問題ありません！混合チームを作ってもらっても構いませんし、もちろん個人での参加でも大歓迎です。

次大会は夏ごろの予定です。みんなで汗を流して、楽しい時間を過ごしましょう！



病棟紹介

東3病棟

東3病棟副看護師長 大坪香織・田淵貴子

東3病棟は、泌尿器科・眼科・耳鼻科・腎臓内科の4診療科の混合病棟で、病床数は50床です。手術や検査・教育入院など入退院が多い病棟ですが、患者さんが安心して入院生活が送れるよう、多職種と協働しながら、患者家族を中心とした看護を目指しています。

看護スタッフの熱い思いにあふれた取り組みをご紹介します



看護体制は、泌尿器科を中心とした『緑チーム』と眼科・耳鼻科を中心とした『赤チーム』の2つのチームで目標を立て取り組んでいます。

緑チームは、「患者さんが入院生活の中で『良かった』と感じてもらおう⇒看護師もやりがいを感じる」ことを目標に、月1回チームカンファレンスを開催し、患者さんのためのケアデイを計画しています。入浴介助・洗髪などの清潔ケアや、試験外泊に向けた散歩や歩行訓練等を患者さんと一緒に計画を立て、実践しています。患者さんが喜んでくれる顔を見たいその一心で頑張っています。

赤チームは、「退院指導を充実させること・統一した指導が行えること」を目標に、退院時パンフレットの見直しに取り組んでいます。眼科は短期間で退院される患者さんが大半なので退院指導では、患者さんの生活背景を見据えた十分な指導が必要です。退院後も自宅での生活の注意点が継続して行えるように、患者さんが理解しやすいものになるよう改訂中です。新たに扁桃腺摘出術後のパンフレットも作成しています。



また当病棟は透析室を有しており、各病棟からの透析患者様さんを受け入れ、安心して透析を受けられるよう日々努めています。新病院移転に向けて、マニュアルの改訂や教育プログラムの計画・修正をしながら、スタッフ教育に力を注いでいます。

患者さんが安心して検査や手術を受け、その後の療養生活が快適に送れるようスタッフ一丸となって頑張っています。

部署紹介

教育研修部

教育研修部長 内藤慎二



現在、当院の教育研修部は、医師（教育研修部長）1名、看護師（教育担当師長）1名、事務員（教育担当事務）2名の計4名で構成され、病院における教育・研修に関わる多くの仕事を行っています。ここでは、その主な内容をいくつか紹介いたします。

教育研修部の主な仕事は、研修医、看護師、その他全ての職員に関わる教育・研修、セミナー、講演、学会発表に関するのですが、

これらの内容をそれぞれ具体的に説明しますと、①研修医採用試験の準備と実施、②研修マッチング登録準備、③マッチング後の手続きと対応、④研修プログラムの作成、⑤大学病院・地域医療病院など外部研修機関の調整と必要文書作成、⑥研修修了のための資料作成、⑦臨床研修委員会の準備と開催、⑧判定会議の準備と開催、⑨研修修了式・修了証書作成、⑩各種研修病院説明会への参加、⑪病院見学及び病院見学会の開催と準備（宿舍予約、案内など）、⑫ポリクリ学生や地域研修生への対応、⑬佐賀大学病院見学ツアーの企画と実施、⑭看護部院内教育研修プログラム企画と運営、⑮看護職員採用前研修企画・準備、⑯看護師採用研修企画・準備、⑰看護部職員就職説明会企画・準備、⑱看護部病院見学会・インターンシップ開催準備、⑲職場体験企画・準備、⑳ふれあい看護企画・準備、㉑看護部ホームページ更新、㉒院内セミナー・講演の企画と開催、㉓セミナーの参加者数集計・管理・分析、㉔診療研究業績年報の作成と発行、㉕各学会ポスターの作成と印刷、㉖国病学会発表予行準備と実施、㉗スタッフ英会話の企画と実施、㉘スキルアッププラボ管理、㉙新人オリエンテーションの企画と実施、などなど、...

これらは、教育研修部が行っている仕事の一部ですが、以上のように年間を通して様々な多くの仕事を行っており、これらはどちらかというとなら出ない目立たない仕事です。勿論、これらの仕事は私達教育研修部のスタッフだけで行っているわけではなく、医師、看護師をはじめとする多くの職員の皆さまの御協力のもとに出来ているわけで、本当に感謝しています。

教育は、物でなく人への投資であるため目に見えるものではありません。また、そこにかけた時間やエネルギーから得られる結果を確実かつ顕著に感じ得るものでもありません。そのため、時にその必要性に疑問を持たれたりしますし、経済的には非生産的であり、どちらかといえばお金が掛かることも多いです。しかしながら、人間にとって心と体の成長に欠かせない極めて重要なもので、一生を勉強と考える医療人にとっては必要不可欠なものと思えます。

このような教育研修を通して、当院の研修医や医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線

技師、理学療法士、栄養士など全ての職種の多くの可能性を秘めた若い人達が、高度な技能や知識を身に着け、何よりも人間として大きく成長していかれる姿は本当に嬉しく思います。そして、皆さんの成長を手助けできるこの教育研修という仕事に、私達スタッフはいつも誇りを持ちながら毎日頑張っています。

職員の皆さん、これからも教育研修部を宜しくお願い致します。

薬剤部

～実務実習の経験を通して～

薬学部は、質の高い薬剤師育成のため平成18年度より4年制から6年制へと移行しました。5年次に実務実習を行い、臨床現場に早く適応できるように薬学教育が変わってきています。そこで、今回は実務実習を当院で経験した二名の学生さんの感想を以下に紹介します。

文責：薬剤部長 八木秀明



病院での実習を通して、処方箋・注射箋に基づく調剤や病棟での薬剤師業務について経験させていただきました。その中で、色々な患者さんについて理解を深める度に、患者さんの病態は簡単に把握できる一面的なものではなく、医薬品の適正使用という観点も含めて薬物治療が慎重に選択されている事を知りました。私は実習での学びを活かし、今後、薬物治療や病態に関する理解を深め、薬剤師としての道をスタート出来るよう頑張りたいと思います。

長崎国際大学 薬学部 5年 岡 辰也

病院実習を通して学んだ事は、確固たる知識を持たなければならないという事です。調剤、無菌調製、病棟業務を体験していく中で、言葉は知っているが説明できないという事が多いと感じました。特に患者さんと関わる時に、曖昧な知識だと情報を聞き出す点で信頼も得られません。確固たる知識を持って薬物治療に携われる薬剤師になるために、上辺だけではなくエビデンスに基づいた知識を身につけ、患者スタッフに頼られる薬剤師になりたいと思います。

長崎国際大学 薬学部 5年 太田賢作



病院の あゆみ

新病院移転まで残り一年
振り返りを
part 2

概略（平成10年～平成22年）

- 平成10年9月～平成15年5月：病院増改修工事
- 平成12年2月：国立武雄病院が嬉野国立病院へ統合
- 平成16年4月：独立行政法人化。名称を嬉野医療センターへ改称
- 平成16年7月：オーダリングシステム稼働
- 平成16年8月：地域医療連携室開設
- 平成18年5月：DPC包括評価制度導入
- 平成18年10月：地域医療支援病院に指定
- 平成18年11月：病院機能評価受審
- 平成19年1月：地域がん診療拠点病院に指定
- 平成20年4月：臨床研究部の設置
- 平成21年8月：BFH(赤ちゃんに優しい病院)に認定
- 平成22年4月：地域救命救急センター指定
- 平成22年6月：電子カルテシステム稼働



H15.3

8列検出器
CT装置導入



現在は、320列検出器CT装置 40倍です

H15.6

ICU

CCU



集中治療室 (ICU)・
CCU稼働

CCUにはベットサイドにテレビを設置し
当時好評でした

H15.9

外来ホールに42型
プラズマテレビ導入



当時参考価格 100万円
現在の25倍の価格と4倍の厚さ

和多屋別荘にて



国立嬉野病院附属看護学校
開学 50周年記念式典

H15.10

5病棟側より15年前の嬉野病院
なんとコーンの位置も今と変わらず



医師会・患者会部向け広報誌「国病通信」・職員向け広報誌「嬉野」を
1本化して現状の広報誌「うれしの」が創刊されました



H16.4



上がオーダリングシステム
下が電子カルテシステム
移行まで6年の短さでした



医療センター改称直後の
正面玄関より
桜の木は今はだいぶ成長
しました

H18.8



SCU 稼働

病棟の外壁をピンク色に塗り替え
新病棟は前の色のままでグラデーションに

H20.7



旧看護学校



現看護学校



H20.11



消防訓練風景

旧看護学校と現看護学校（新築当時）
看護学校は新病院と一緒にまた建て直します



H22.1



大雪に見舞われた嬉野医療センター
数年に一度、嬉野は厚めの雪化粧をします



伝統芸能である面浮立（めんぶりゅう）
病院へ来る

